

美術講座 2018

※全7回（各回 14:00～15:30）

※タイトルなど当日変わる可能性があります。

※詳細は裏面をご覧ください。

企画展スケジュール
Exhibition Schedule

4・14～6・10

小倉遊亀 絵筆にこめた愛

6・23

～8・26

のぶや
阿部展也

—あくなき越境者

9・6～9・24

〈正・誤・表〉

美術館とそのコレクションを
めぐるプログラム

11・3

～12・16

フランス国立図書館
版画コレクション

ピカソ

版画をめぐる冒険

7月21日（土）

『日本写真史の一系譜 阿部展也、大辻清司、牛腸茂雄』

担当：松沢 寿重 学芸員

画家としての業績のみならず、日本の写真史においても見過ごせない足跡を残した阿部展也。彼が戦前に取り組んだ「前衛写真」は、戦後に登場した大辻清司に強い感化を与え、さらに大辻の門下から牛腸茂雄が輩出されました。太い影響関係の連鎖でつながる三人を軸に、知られざる写真史の系譜を辿ります。

8月18日（土）

『エンコースティックと阿部展也』

担当：上池 仁子 学芸員

五泉市出身の画家・阿部展也（1913-71）は、1959～67年、顔料と蜜蝋などを加熱しながら画面に定着させる技法・エンコースティックを用いて多彩な作品を制作しました。西洋古典古代の絵画技法を、なぜ阿部はこの8年間だけ採用したのか。同時代の他作家の事例も交えて、その特色をご紹介します。

11月17日（土）

『ピカソの恋人—描かれたミューズたち』

担当：荒井 直美 学芸員

20世紀初頭、目まぐるしく動いた時代に自身も変幻自在にスタイルを変えていったピカソ。その影には女性たちの姿がありました。妻、恋人はたまた三角関係、ピカソを取り巻く女性たちは、彼にインスピレーションを与える女神（ミューズ）でもあったのです。恋多き人生とその画業をたどります。

12月15日（土）

『ピカソとロシア』

担当：前山 裕司 館長

20世紀の初め、革命前のロシアでは、ピカソやマティスの革新的な芸術にいち早く反応したコレクターや芸術家がありました。のちにロシア・アヴァンギャルドと呼ばれる大きな動きを生み出していくきっかけとなった、ピカソとロシアのつながりをご紹介します。

うらへ



2019 1・12

～ 3・24

東郷青児記念

損保ジャパン

日本興亜美術館

所蔵

東郷青児展

2019年1月19日(土)

『ウィリアム・モリスと 19世紀後半のイギリスの暮らし』

担当：星野 立子 学芸員

ウィリアム・モリス(1834-96)がデザインした草花がモチーフの甘美な壁紙やテキスタイルは、今日でも世界のベストセラー商品です。しかし、彼がそうした製品を通じ「素敵なくらし」を描かなければならなかったのは、「そうでない現実」が英国社会に蔓延していたから。時代背景からモリスの意義を見つめます。

2月16日(土)

『イタリア・マニエリスムと芸術家列伝』

担当：児矢野 あゆみ 学芸員

これぞ美術史のマイナージャンル!ルネサンスとバロックの間には「マニエリスム」という美術様式の時代がありました。今から500年前にヨーロッパを賑わせた、ちょっと不思議でヘンテコリン、個性豊かな芸術家たちの作品とその人生にまつわる物語をご紹介します。

3月16日(土)

『世間を騒がせた画家たち』

担当：藤井 素彦 学芸員

藤田嗣治(1886-1968)や東郷青児(1897-1978)、岡本太郎(1911-1996)は広く一般の話題をさらった文化的スターでした。彼らのような存在は、今の美術界にはいないかもしれません。戦後日本の文化史・風俗史を彩った画家たちの逸話を通じて、世の中と美術との関わりを考えてみます。

各回共通のご案内

- 時間 14:00～15:30 (13:30開場)
 - 場所 新潟市美術館 2F 講堂
 - 参加 聴講無料、定員100名
 - ・事前申し込み不要、当日直接会場へお越し下さい。
 - ・内容は変更となる場合がございます。
- 最新情報は当館ホームページをご覧ください。

〈お問い合わせ〉

〒951-8556 新潟市中央区西大畑町 5191-9

☎025-223-1622

ホームページ：<http://www.ncam.jp/>

コレクション展も一緒に!

「コレクション展Ⅰ
まる、はじまりのかたち」
4・20～7・29

「コレクション展Ⅱ
LANDSCAPE
水土の作家 ×
NCAMコレクション」
8・7～12・2

「コレクション展Ⅲ
美術の偶然!」
12・7～2019 4・7